

### 3 校内授業研修会

#### 芸術科（美術 I）学習指導案

日 時 平成30年12月12日（水）5校時

授業者 伊藤 直哉

場 所 秋田中央高等学校 1年 E組

#### 1 単 元 名 デザイン分野「情報伝達」

#### 2 単元の目標

- 文字や図・表など、視覚伝達で大切なことに目を向ける。
- 「板書」してグループ内で確認し合い、改善することができる。
- 口頭での説明、身振り等を加えて「伝えて」みる。視聴してお互いに評価し合う。

#### 3 評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
目的：「伝達する」を考えて表現することに関心を持ち、板書・発表に参加している。	伝えるべき内容（条件）を基に、方法（文章、文字、図・表、色 など）を考え、意見を出し合い構想を練る。	効果的な表現方法を工夫し、「伝達」のための説明内容も吟味し見通しをもって板書計画している。

#### 4 生徒と単元

##### ・生徒について

幼稚園、小・中学校での図工、美術の学習体験を通して表現を楽しむ姿勢が出来ている。他教科では獲得している基礎知識、基本技能が足りていない面もある。鉛筆で描くことには自信を持っているが、ほとんどの生徒が色に対する苦手意識を感じている。立体把握も苦手である。しっかりと「観察」して、形や色を表す習慣が身につけていないためと考えられる。

本校のスーパーサイエンスハイスクール事業の「探求力」の基となり、「問題解決能力」の問題点を見抜く力としてもしっかりと「観察」は必須の態度、能力である。前期はデザイン分野で色を重視した制作を、夏からは観察と再現を重視した「中央高校の校舎を描く」制作を進めてきた。

##### ・教材について

デザイン分野の「表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現する」の中で、目的：説明内容的に伝えること。表現方法：黒板利用の中で表現を工夫する（文字、図・表、サイン、色などの表示）を取り上げる。

中央高校のスーパーサイエンスハイスクールの取り組みとして、研究発表活動があり、A1用紙への記述と、クラス・学年での発表の機会がある。「伝える」ことに目を向け、2・3年次での活動やAO入試、大学での学びにつながる題材を設定した。

毎日、授業に参加し教員の板書を目にし説明を聞いている。板書についてのアンケートには、黒板やプロジェクター、ホワイトボード利用について、文字や図・表の記述、色、見えやすさや記述のスピードなど意見が集まった。授業を聴講する立場からの色々な気づきがみられた。今回は、自ら「板書」し、説明してみることで「伝える」ことの難しさ大切さに改めて気づき、これからの授業への取り組みやノート記述の工夫につながることを期待している。

1年次の各教科の授業内容を「板書」の題材とした。現在学んでいる項目、これから学ぶ内容もあるため、書くべき内容や重要な点、説明の必要な点等々を間違いなく判断し、板書、説明することは難しい。内容や説明に不足や間違いもありうる。しかし、より身近な題材として、また学習へのつながり等も考え、板書表現する内容を設定した。他教科との連携などで改善につながることを期待して課題とした。

本校で授業の提示に使用される、黒板、ホワイトボード、プロジェクターの中からアンケート結果で評判の良かった黒板を利用している。

## 5 全体計画 (2時間)

	学習内容	生徒の学習活動	留意点
1 時 限	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を把握する</li> <li>○板書についての意見を知る</li> <li>○板書計画を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート結果から、黒板、ホワイトボード、プロジェクターでの提示方法について様々な意見を知る</li> <li>○グループ編成</li> <li>○板書する教科、項目の検討</li> <li>○板書の留意点を考える。</li> <li>○教科書、資料集等を基に板書内容をまとめる。</li> <li>○発表について検討する。</li> </ul>	<p>項目はこれまで学んだ範囲、これからの範囲いずれも可</p> <p>板書の工夫点を述べる板書で模擬授業をするいずれも可</p>
2 時 限	<ul style="list-style-type: none"> <li>○板書する</li> <li>○発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表を考えて板書する</li> <li>○発表する</li> </ul>	班編成に合わせ、発表時間を調整する

## 6 展 開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の確認</li> <li>板書の教室を割り当てる</li> </ul>	作業時間の確認	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書</li> <li>計画を基に分担して板書を行う</li> <li>発表</li> <li>○模擬授業的な発表</li> <li>○板書作成上の工夫等をクラスの生徒に伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板のサイズを考慮し、文字サイズ、配列、改行等を調整させる。</li> <li>発表者の進め方を考え修正しながら進める。</li> <li>作業時間を確認し、必要な内容を伝えられる文章、図・表を書かせる。</li> <li>黒板の内容を見ながら、班ごとの発表時間の調整を行う。</li> <li>(音楽選択生徒も聴講担当として参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見やすさの工夫</li> <li>理解を促す工夫</li> <li>板書に基づいた発表方法の工夫</li> <li>(発声、身体表現、進行は別に評価)</li> <li>【イ、ロ、ハ】</li> </ul>
ま と め	各班の工夫や魅力を共有する。	メモで伝え合う。	良いところへの気づきがある 【ロ、ハ】

評価： イ 美術への関心・意欲・態度、 ロ 発送や構想の能力、 ハ 創造的な技能